

子宮頸がん予防ワクチン(HPV)接種

2026年6月より定期接種も承ります

「子宮頸がん」って、どんな病気？

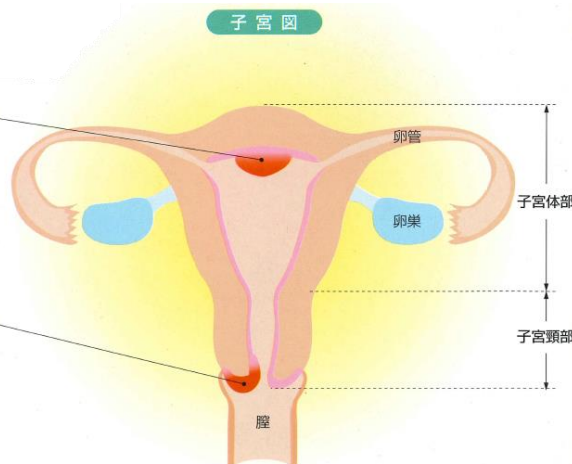
子宮のがんは、子宮の入口の頸部にできる「子宮頸がん」と、子宮奥の子宮体部にできる「子宮体がん」の2つに分けられます。子宮頸がんは、子宮がん全体の約70%を占めています。

子宮体部がん

子宮の奥の部分「子宮体部」に発生するがん。
閉経後に発症することが多く、50歳代がピークとなっています。

子宮頸部がん

子宮の入口部分「子宮頸部」に発生するがん。
発症のピークは40歳代であるが最近、若年者の発生率に増加傾向が見られます。



子宮頸がんの原因

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルスの感染が原因です。

HPVは男性にも女性にも感染するありふれたウイルスであり、性交経験のある女性のほとんどは、一生に一度は感染の機会があるといわれています。

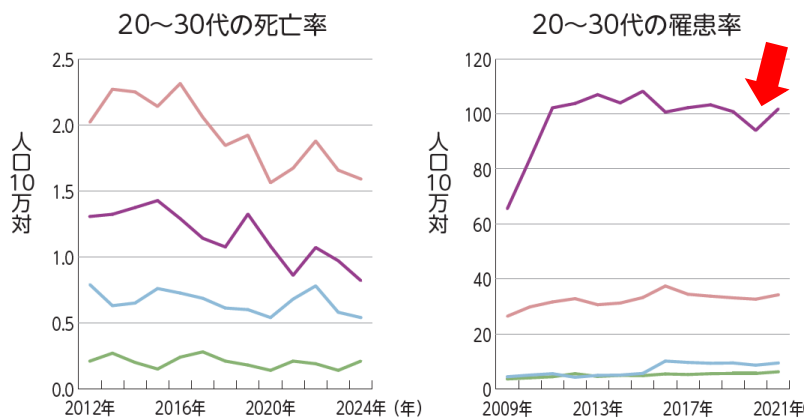
感染してもほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、一部の人は消えずに長期感染し、その一部の人のがんになってしまうことがあります。

若い女性もかかりやすいがん！

子宮頸がんは近年、20～30代を中心に罹患率が増加しています。背景には、性経験の低年齢化と、この年代層の受診率が低いことにあると考えられています。がんになる過程の異常（異形成）や、ごく初期の頸がんを発見することができれば、子宮を残す治療が可能で、妊娠出産も望めます。

若いから大丈夫と安心せずに、20代から2年間に1回は検診を受けるようにしましょう。

子宮頸がんの死亡・罹患状況



— 子宮頸がん* — 乳がん* — 卵巣がん — 子宮体がん

* 上皮内がんを含む

出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

子宮頸がんはゆっくり進行する・・・

HPVに感染しても、約90%の人においては免疫の力でウイルスが自然に排除されますが、10%位の人ではHPV感染が長期間持続します。

この長期持続感染者の一部の人は、約5年から10数年をかけて子宮頸がんに進行します。

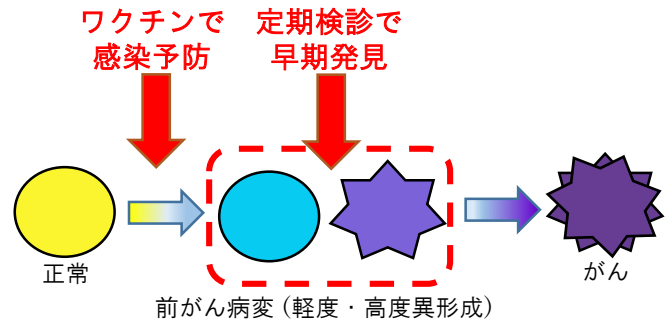
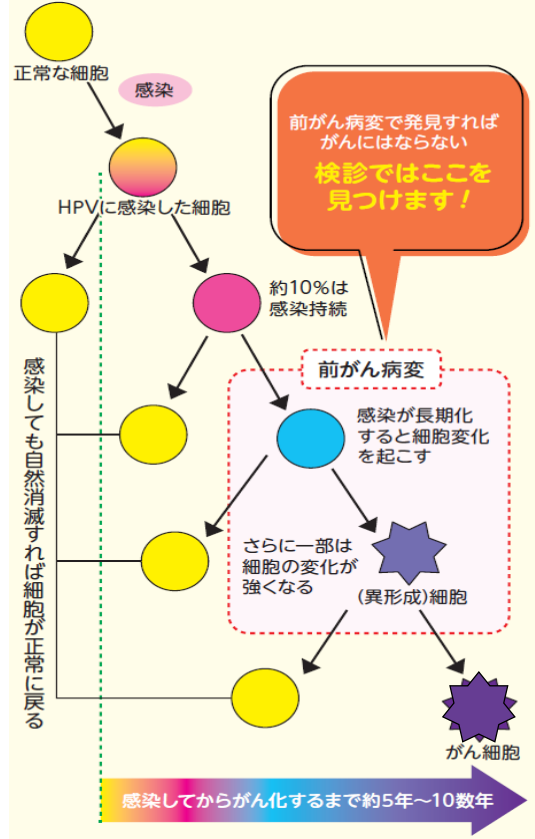
ワクチン接種+ 2年に1回のがん検診

子宮頸がん予防ワクチンを接種することで、HPVの感染を低減させることができます。

HPVワクチンの定期接種の対象者は、小学校6年～高校1年相当の女の子です。これらの対象者は、公費により接種を受けることができます。

また、子宮頸がん検診を定期的に行うことで、がんになる前の病変（異形成）や、ごく初期のがんを発見し、経過観察や負担の少ない治療につなげることができます。

予防ワクチンを接種しても、発がん性HPVの感染を100%予防することはできませんので、ワクチンを接種した後も20歳を過ぎたら2年に1回、子宮がん検診を受けましょう。



ご予約・お問い合わせ

【電話】 043-246-8664

【時間】 予約・お問い合わせ…月～金（祝日除く）16:00～17:00（看護師対応）

【接種日】 毎週月曜日

【受付時間】 15:00～15:30 診察開始 15:30～

【対象】 ① 定期接種対象者：小学6年生～高校1年生相当の女子
② ～25歳くらいまで（ご相談ください）

【ワクチン】 シルガード9（筋肉内接種）

1回目を接種した年齢により接種回数異なります

1回目が15歳未満	2回接種	1回目 → 6か月後に2回目
1回目が15歳以上	3回接種	1回目 → 2か月後に2回目 → 1回目から6か月後

【費用】 ① 千葉県内在住の方：無料

② ①以外・県外の方：1回26,400円（税込）

【持ち物】 ・母子健康手帳 ・マイナ保険証等（住所・年齢・氏名を確認できるもの）
・予防接種番号シール（お持ちの方）、
・予診票（県内・千葉市の方）※②の方は当日に記入